

RSウイルス感染症について

RSウイルス感染症とは

RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。RSウイルスは日本を含め世界中に分布しています。何度も感染と発病を繰り返しますが、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。

症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。しかしながら、初めて感染発症した場合は重くなりやすいといわれており、乳児期、特に乳児期早期(生後数週間～数ヶ月)にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。そのため、乳児期早期(生後数週間～数ヶ月)のお子さんがいらっしゃる場合には、感染を避けるための注意が必要です。

潜伏期間

2日～1週間。

感染経路

飛沫・接触感染

RSウイルスに感染している人が咳やくしゃみ、又は会話をした際に飛び散るしぶきを浴びて吸い込む飛まつ感染や、感染している人との直接の濃厚接触や、ウイルスがついている手指や物品(ドアノブ、手すり、スイッチ、机、椅子、おもちゃ、コップ等)を触ったり又はなめたりすることによる間接的な接触感染で感染します。



感染予防方法

咳等の呼吸器症状がある年長児や成人は、可能な限り、0歳児から1歳児との接触を避けることが乳幼児の発症予防につながります。接触感染を予防するには、子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどをこまめにアルコール又は塩素系の消毒剤で消毒し、流水・石鹸による手洗いが重要です。また、咳等の症状がある場合にはマスクを着用する等の咳エチケットが有効です。

